

日本医学ジャーナリスト協会 5月例会

音楽療法の現在と未来 ～多様な実践・国家資格化について～

二俣 泉
(昭和音楽大学)

二俣泉 略歴

国立音楽大学（ヴァイオリン）卒
同大学院修士（音楽教育学）修了
筑波大・大学院修士（障害児教育）修了
ノードフ・ロビンズ音楽療法オーストラリア卒

日本大学芸術学部助手・非常勤講師、洗足学園音楽大学非常勤講師、
日本大学医学部兼任講師・付属板橋病院音楽療法士、
東邦音楽大学専任講師・准教授、昭和音楽大学准教授等を経て
現在、昭和音楽大学教授

日本音楽療法学会認定音楽療法士、同学会副理事長。

1

2

1. 音楽療法の歴史・現状

- 健康回復のための「音楽活用」は古代から **宗教 魔術**
- 20世紀後半～医学・心理学など科学的知見を踏まえた音楽療法が発展 **科学 研究**
- 1950 「全米音楽療法協会」設立（米国）
- 1960年前後 日本で音楽療法実践開始
- 1996 日本で音楽療法の全国組織設立
- 2001 「日本音楽療法学会」設立

3

2. 現代の音楽療法

- 音楽療法士が **教育・訓練を受けた有資格者**
- 治療・支援が必要な対象に **新生児～高年齢・終末期**



4

2. 現代の音楽療法

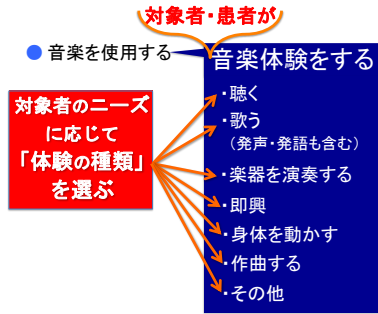
- 音楽療法士が **教育・訓練を受けた有資格者**
- 治療・支援が必要な対象に **新生児～高年齢・終末期**
- 目的を持って **健康（身体・心理・社会）の維持・回復、問題の予防**
- 計画的に **みため → 実践 → 評価**
- 音楽を使用する **音楽体験をする**

5

2. 現代の音楽療法

- 音楽療法士が **教育・訓練を受けた有資格者**
- 治療・支援が必要な対象に **新生児～高年齢・終末期**
- 目的を持って **健康（身体・心理・社会）の維持・回復、問題の予防**
- 計画的に **みため → 実践 → 評価**
- 音楽を使用する **音楽体験をする**

6



7

8

音楽体験をする

- ・聴く
- ・歌う (発声・発語も含む)
- ・楽器を演奏する
- ・即興
- ・身体を動かす
- ・作曲する
- ・その他

「音楽を聴かせればなんとかなる」というわけではない

3. 音楽療法の実際例

- 自閉スペクトラム症の子ども
- 知的障がいの青年
- 高齢者
- 脳卒中後遺症
- 緩和ケア
- 精神疾患

9

日本語 English Español Français Hindi Italiano 日本語 検索

信頼できるエビデンスと情報にもとづく意思決定により健康のさらなる向上へ

エビデンス コクランとは コクランに参加する News and jobs コクランライブラリー

自閉症スペクトラムに対する音楽療法 公表日: 17/6/2014

10

主な結果

音楽療法は「プラセボ」療法や標準的治療に比べて、社会的な相互交流、非言語的および言語的コミュニケーションスキル、働きかけ行動および社会・情動的相互性の点で優れていた。このほか、音楽療法は、社会的適応、喜びおよび親子関係の質の領域で「プラセボ」療法や標準的治療法よりも優れていた。評価対象となった研究ではどれも、音楽療法による副作用は報告されなかった。

エビデンスの質

療法の場面以外での社会的な相互交流、働きかけ行動、社会的適応、親子関係の質に関するエビデンスの質は中程度、主要アウトカムの残る3項目（療法の場面以外での非言語的コミュニケーションスキル、療法の場面以外での言語的コミュニケーションスキルおよび社会・情動的相互性）のエビデンスは質の低いものであった。エビデンスの質が限られたものになった原因は、試験デザインの問題と、試験に参加した患者の数が少なかったことにありました。

11

レビューの論点

自閉症スペクトラム (ASD) の人に対する音楽療法の有効性について、エビデンスを評価した。音楽療法または音楽療法を標準的治療法に追加したものを、無治療、よく似た治療ではあるが音楽を用いないもの（「プラセボ」療法）または標準的治療法と比較した。

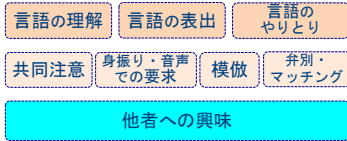
著者の結論

音楽療法が、社会的な相互交流やコミュニケーションなど、ASD児の重要なスキルの改善につながる可能性がある。このほか、音楽療法によって、ASD児の社会的適応スキルや親子関係の質の向上がもたらされる可能性もある。レビューでは、いくつかの試験が、臨床での診療に適用可能な介入を実施していた。適切なデザインの大規模な研究を実施する必要がある。音楽療法の効果がどれくらい持続するのかが特別に検討することが重要である。音楽療法を応用するには、特別な学術的、臨床的な研修が必要である。これは、このレビューの結果を診療に適用する場合に重要である。

12

発達障がい・知的障がいの子どもは...

コミュニケーションが育つ「前提」
となる能力が不十分

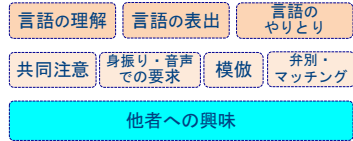


「どの能力」が不足しているかは、
個々の子どもで異なる

13

言葉でのコミュニケーションが難しい
子どもは、どう教えるのか

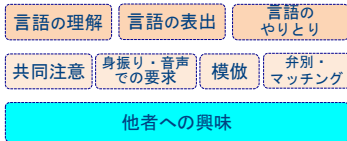
「抜けている能力というレンガ」を
教育・訓練によって作り出す必要がある。



14

言葉以外のコミュニケーション
手段が必要 ↓ 音楽

「抜けている能力というレンガ」を
教育・訓練によって作り出す必要がある。



15

ただ「音楽を使えばいい」というわけではない。

音楽が複雑すぎたり、長すぎたりすれば、
子どもは受け止められない。

16

個々の子どもに
受け止めやすく、反応しやすい音楽である必要がある。

3. 音楽療法の実際例

- 自閉スペクトラム症の子ども
- 知的障がいの青年
- 高齢者
- 脳卒中後遺症
- 緩和ケア
- 精神疾患

17

知的障がいの青年のグループ音楽療法

対象は、学校生活のほとんどを特別支援クラスで
過ごしてきた人たち。

もうすぐ学校を卒業する。

学校から地域での就労への「移行期」にある
青年たちを精神的に支え、また彼らの社会性の
促進を目的とした音楽療法。

18

3. 音楽療法の実際例

- 自閉スペクトラム症の子ども
- 知的障がいの青年
- 高齢者
- 脳卒中後遺症
- 緩和ケア
- 精神疾患

19

- 高齢化に伴い、認知症の人が増加
- ひきこもり・健忘・うつ傾向など
- 言語を用いたコミュニケーションが困難なケースも多い

BPSD
など

音楽療法の、
言語を介さずコミュニケーションが取れる

20

BPSD

Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia
認知症による行動・心理症状

- ・活動性亢進(焦燥、易刺激性など)
- ・精神病症状(幻覚、妄想など)
- ・感情障害(不安、抑うつ)
- ・アパシー(無気力) など

介護が困難
となる要因

治療(日本神経学会 ガイドライン 2017)

原因・環境の評価

環境調整

非薬物療法を優先

音楽療法

21

認知症に対する音楽療法の効果 (Uedaら 2013)

メタ解析 20研究 RCT,CCT
(日本の研究は、6件
そのうち日本音楽療法学会の研究:3件)

・不安に対して中等度有効
3か月以上の介入で効果がさらに増強

・BPSDに対して軽度有効

22

音楽療法士による介護予防の ための音楽療法の実際例(動画)

対象:健康な高齢者

1. 歌に合う「振り付け」を対象者自身に考えさせる。
(この場面では、「月がとっても青いから」が題材)
2. 「振り付け」とその順番を覚えさせる。
3. 歌をうたいながら
覚えた「振り付け」を思い出して踊る。

認知症予防に役立つ「デュアル・タスク」
(二つのことを同時に行なう課題)

23

3. 音楽療法の実際例

- 自閉スペクトラム症の子ども
- 知的障がいの青年
- 高齢者
- 脳卒中後遺症
- 緩和ケア
- 精神疾患

24

統合失調症

・症状

陽性症状

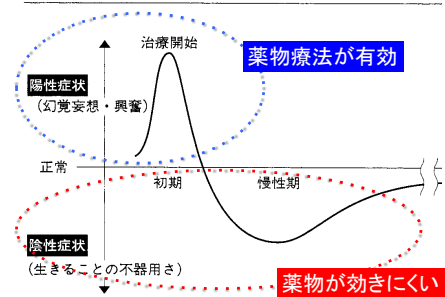
幻覚、妄想など

陰性症状

自発性低下、自閉傾向
→薬物が効きにくい
→変化しにくい
→長期入院

25

統合失調症の経過図



26

陰性症状

- ・意欲がなく、ひきこもりがち
- ・いつも同じ服装で、同じものを食べる
- ・幼稚、些細なことで混乱
- ・寡黙・無愛想に見える、他人に無関心
- ・バランス感覚に欠ける

27

陰性症状が伝える意味

- ・ **生きることの不器用さ**
- ・ 「言わずもがな」のことがわからない
- ・ 病院での生活(受容的)では問題なし
- ・ 地域での生活→不適応
→周囲の偏見
「甘えている」「やる気がない」「怠け癖」

28

リカバリー

- ・ 病気からの回復+(地域で)居場所・役割の獲得
- ・ 陰性症状への対応が重要
- ・ 音楽療法は**陰性症状への対応の手段**として歴史・成果あり

29

統合失調症に対する音楽療法 (2017年の時点のエビデンス)

コクランライブラリー

- ・ 18研究 1215名 7~240セッション
(2005年は4研究)
- ・ 標準的な治療に音楽療法を加えると、
全体の状態、精神状態(陽性症状、陰性症状)、
社会的機能、QOLが向上する。
<軽度~中等度のエビデンス>
- ・ 陰性症状
短期 5研究 SMD -0.50 95%CI -0.73~-0.27
中期 3研究 SMD -0.55 95%CI -0.87~-0.24

30

4. 国家資格化に向けて

- 2003 沢たまき氏議員（公明）の働きかけにより、
音楽療法推進議員連盟発足
会長：斎藤十郎議員（自民）（後に丹羽雄哉議員に交替）
- 2004 音楽療法士国家資格法案要綱（案）策定

2004 国会 上程予定

「学会内に意見の不一致がある」として**議連の活動休止**

学会は、議連への継続的な働きかけと共に会員との話し合いを続け

- 2007 第7回大会（北海道）学会総会で
法案要綱にそった立法化を目指すことを決議。

31

2017年からの動き

- 2017 秋野公造議員（公明）を中心に積極的に動き始める
公明党音楽療法推進プロジェクトチーム（座長：浮島智子議員）
- 2019 厚労副大臣に申し入れ書提出・参議院法制局との話し合い
- 2020 参議院法制局との話し合い・文科省担当者との話し合い
他職種との違いの明確化の必要性について議論
- 2021 文科省・厚労省・参議院法制局担当者との話し合い

33

- 2009 政権が 民主党に
- 2010 民主党音楽療法推進議員連盟発足
- 2012 政権が自民・公明に

※自民・公明による音楽療法推進議員連盟発足を働きかけ、
活動を求めるが、動きが見られなかった。

32

- 2021 文部科学省担当者との話し合い
参議院法制局・厚生労働省担当者との話し合い

議論の要点

- ・既存の国家資格との業務の重なりがないか
- ・どのような位置付けの資格にするのか
- ・名称

34